

表 16 交流及び共同学習の学習態勢チェックリスト

交流及び共同学習の学習態勢チェックリスト

氏名( ) 授業名( )  
 記録日 年 月 日

項目	○	△	×	様子・課題
1	座ってられる			
	先生の話聞く			
2	教科書を見てられる			
	教科書にマーカー等が入られる			
4	ノートが取れる			
	教科書を読む			
6	発言できる			
	質問できる			
8	個人の課題に取り組める			
	グループの課題に取り組める			
10	不適切な発言はしない			
	周りの友達に不適切な関わりをしない			
12	友達に話し掛ける			
	友達と遊ぶ			
14	一人で適切に過ごせる			
	適切な場所にいられる			
16	友達に不適切な関わりをしない			

## II 実践編

### (2) 交流及び共同学習の配慮点について

交流及び共同学習に参加する児童への支援についてまとめました。

#### ◆学級担任の全体説明時

- ・児童・生徒にとって理解が難しい言葉は、分かりやすい言葉に置き換えて伝える。

#### ◆全員で考える時

- ・挙手して指名されなくても、不安定にならないよう支援する。
- ・友達の意見の理解度を確かめ、必要に応じて分かりやすく伝えることで、友達の意見を聞くことができるよう支援する。

#### ◆グループでの活動時

- ・「今からグループで、どんな活動が始まるか、何をすればよいか」を確認する。
- ・どこに行って話し合いをするか伝える（特に新しい班編成になった直後は大切）。
- ・協力して活動できているか確認し、活動の流れ等を分かりやすく伝える。
- ・教員が児童・生徒を支援するほかにも、「～さんに相談してみてください」等、通常の学級の児童・生徒と関わるように言葉を掛ける。

#### ◆挙手したとき

- ・答えや予想をノートに書いてある場合は、「正解」などと伝え、挙手をするよう言う。
- ・児童・生徒が発言に慣れない時期は、発言内容を事前に聞き取り、自信をもたせるなどの支援をする。

実施したアセスメント等と結果

【アセスメントの実施】

- ・国語科学習評価シート

【アセスメントの結果】

- (1) 音読は、比較的スムーズに取り組むことができる。
- (2) 作文では、経験したことを書くことができる。
- (3) 読解では登場人物の心情を読み取ることが苦手である。

- ・知らない語句を調べたり、文の主語や述語等に注意したりして、登場人物の会話や行動を正確に読み取らせること。
- ・読み取ったことを基に、登場人物の心情を想像させること。
- ・感情語や比喩や隠喩から登場人物の心情を想像すること。

単元名：「ちいちゃんのかげおくり」

学習のねらい

登場人物の会話や行動等の「言葉」に注目し、心情を読み取る。

障害特性に応じた指導の工夫

- 1 知らない言葉を調べる。
- 2 誰が何を言ったか抜き出す。
- 3 一言で気持ちを書く。

学習の流れ

- 1 初めて聞いた語句の意味調べをする。
- 2 会話文を抜き出して書く。
- 3 ワークシートを活用し、登場人物の心情を考え、端的に書く。

○どのような場面での会話かヒントを出すことで、考える支援をします。



指導方法の工夫

- ◆「お母さん」の言葉は複数あるので、板書するなどして、児童に提示します。
- ◆その中から、心情を表すキーワードはどれかを考えます。辞書で調べた言葉がヒントになることを児童に伝えます。

- ◆辞書で重要語句を調べます。
- ◆作品世界の背景を端的に表している言葉なので、調べて理解することが極めて重要です。

『ちいちゃんのかげおくり』 ワークシート(一) ④ ⑤

月 日 名前 ( )

☆意味調べ

たすき

いくさ

☆登場人物の会話や、気持ちを表す言葉に注目して、読み取りましょう。

一、お母さんが言った言葉を書き写しましょう。

二、お母さんは、どんな気持ちだったでしょうか？

三、広い空は、どんな所にかわりましたか？

所ではなく

所にかわりました。

気持ちを表すキーワードから気持ちを一言で書きます。会話や行動を基に端的に分りやすく物語の内容をつかみます。

文章を一場面区切り、情報を絞り、読みやすくする。 ※場面ごとにワークシートを用意する。

指導の成果

- 気持ちを表す単語(キーワード)に気付くようになってきました。
- 登場人物の心情の変化に気付くようになってきました。



- ◆読み取りやすくするために、場面を区切って短い文で指導することが有効であることが分かりました。
- ◆短く区切った場面ごとにワークシートを用意し、スモールステップで学習を進めることが有効であると分かりました。
- ◆登場人物の心情を読み取るために、キーワードを抜き出すことは効果的であることが分かりました。

# 自閉症・情緒障害学級における「算数科」の指導(1)

## 実施したアセスメント等と結果

### 【アセスメント】

「算数科学習評価シート」

### 【アセスメントの結果(学級の児童の実態)】

- (1) 「直接的に比較すること」や「時計への関心」が高い児童が多い。
- (2) 「測定(目盛りの読み)」の経験が少ない児童が多い。
- (3) 「実生活との関わりを想像すること」が不得意である児童が多い。

## 指導目標の設定

「直接的に比較すること」や「時計への関心」の高さを生かし、「測定(目盛りの読み)」、「時刻の実生活との関わり」ができるように、時刻を読むことを目標としました。



## 単元名:「なんじ・なんぷん」

### 障害特性に応じた指導の工夫

#### ★学習にメリハリをつける

- ・全体指導→個別指導→全体指導



#### (1) 全体指導(20分)

##### ○クイズ:「なんじ?・なんじはん?」

- ・スライドを使って、個別課題のやり方の説明
- ・「何分」の読み方の発表

#### (2) 個別指導(15分)

##### ○ワークシート(時刻の読み)

#### (3) 全体指導(10分)

- 復習クイズ「なんじ?・なんじはん?」
- 学習の振り返り



カード等を使って、教員が本時の授業の流れを説明

# (時計:時刻の読み) 第1学年

## 指導内容・方法の工夫

### 全体指導

#### ◆段階的な指導と視覚支援

1分、2分、3分…

1分読み!

1ぶんよみ

9じ3ぶん

5とぼし読み!

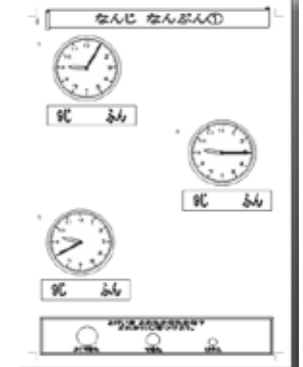
5分、10分、15分!

5とぼしよみ

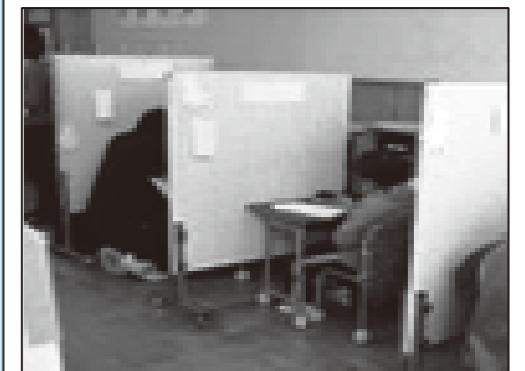
9じ15ぶん

### 個別指導

#### ◆ワークシート



落ち着ける環境を用意して…



## 指導の成果



学級の児童のほぼ全員が、「5とぼし読み」ができるようになりました。

◆児童の中には、「自分が朝起きる時間は何時何分か?」といったように、自分の生活と関連付けて時計や時間(目盛り)への興味が育ってきた子供もいます。

#### ★アセスメントの結果に基づいて、

- (1) 「時計」を題材にしたことで、
- (2) 興味をもって「目盛を読む」学習を継続でき、
- (3) 実生活との関わりも少しずつ理解でき始めたようです。